

## ウェルビーイング (well-being) のために

新型コロナ感染症の影響で、新しい生活様式が定着し、さらに、Withコロナとして、学校行事等も感染対策を講じたうえで、徐々にですが実施されつつあります。世界に目を向けると、ロシアのウクライナ侵攻により今この瞬間にも罪のない多くの人々が苦しみ、傷つき、涙しています。新型コロナ感染症拡大や紛争状態という、幸福とは言い難い状況が一刻も早く終息することを願わずにはられません。

さて、そもそも幸福とは何でしょうか。諸説ありますが、個人が持つ日常的な快・不快の感情状態と人生に対する評価の二つの軸があります。教育場面で考えると、日常的な快・不快レベルだけではなく、人生に意義や価値が見出せるかどうかが重要になってきます。

最近では、幸せという言葉以上に「ウェルビーイング (well-being)」という言葉も聞かれるようになりました。幸せより拡張性の高い概念です。「今の」幸せではなく「これからの」幸せ、「自分だけの」幸せではなく「皆の」幸せというように、自分を中心に置きながらも人間関係的・時間及び世代的に、より広く幸せのあり方を考える概念です。次世代そして未来に向けて、学校、地域、社会、さらには地球規模での「幸せ」を考えていくことが必要になります。ネガティブな状態を回避することだけがウェルビーイングではないのです。

特に「皆さんのウェルビーイング」と言った場合には、次代を担う皆さんが将来に向かって希望を持てることに主眼を置きます。それを支えるために、周囲の社会状況や教育制度等を深慮し、状況に合わせて変えていく必要があります。一つの学校、教室で皆が同じ環境・方法で学ぶための整備だけではなく、希望を持って生きられること、多様な生き方を支えること、より良い社会に向かっていくことなど、ともすれば硬直しがちな教育環境において、より多様な学び方を可能にするにはどうしたらよいかを考える必要があります。

中央高校昼間定時制は、多様性に対応できるシステムを有しています。それを更にアップデートすることで、生徒のウェルビーイングに寄与する、そんな学校にしていく所存です。

2022年9月1日  
校長 山口大二